

追悼 横山 榮二 先生

大気汚染学会長を長く務められ、学会の発展に大きな貢献をされた横山榮二先生が、2019年（令和元年）10月5日に満90歳で逝去されました。しばらくして奥様からお知らせを頂き、葬儀は近親者だけで営まれたことを知りました。まさに公害と大気汚染研究の一つの時代が終わったような大きな感慨が胸に迫ります。親しく警咳に接し、研究や環境行政のご指導を受けた者を代表し、深く哀悼の意を捧げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私が横山先生の知己を得て、国立公衆衛生院（現保健医療科学院）で研究を始めたのは、1982年（昭和57年）の事ですが、先生はその頃はすでに二酸化硫黄、窒素酸化物の健康影響に関しては世界的にも高名で、新たに光化学オキシダント（オゾン）の健康影響に取り組んでおられた時でしたが、その後まもなく、大気汚染研究協会賞（斎藤潔賞）「二酸化硫黄、二酸化窒素、オゾンなどによる生体影響、とくに肺機能に対する呼吸生理学的な研究」（1986年度）を受賞されました。また、大気汚染学会関東支部長を長く務められて、1989年には、記念すべき第30回大気汚染学会年會を川崎市で開催して年會長を務められ、1994年度から1999年度まで、大気汚染学会長として学会の発展のために全力を尽くされ、2000年9月27日に、名誉会員に推戴されています。

学会活動と並んで、先生は、学会の大先輩でもある故鈴木武夫先生とともに、大気汚染物質の環境基準の策定など、わが国の環境行政にも大きな役割を果たされました。特に光化学オキシダントの環境基準の策定、1978年の二酸化窒素の環境基準の改定、自動車排出ガス規制に際してご苦労されたお話は、よく伺いました。

光化学オキシダントは、現在も基準達成率が低く、その評価方法などについて、議論が盛んに行われていますが、この問題に関してこの2月に、当時の文献などに関して伺ったことがありますが、そのご返事に以下のメールを頂きました（原文のまま）。



内山先生：環境基準制定時の知見について御要求を頂いてから1月以上、資料を探しましたが何分にも体力不全にて十分に出来ず申し訳ありません。ただ次の事を指摘したいとおもいます。

- (1) 当時東京や大阪の大気中 O_3 濃度が高く場所によっては強い呼吸器影響が出現。また眼の刺激の訴えが出現（当時のアメリカでは眼の刺激は健康影響ととらえない）
- (2) 所謂赤本を参考（小生が全訳して委員会に提出）
- (3) 当時我が国に組織的な疫学研究は少なく、また動物実験は小生のみが行っていたこと

横山榮二 E.Yokoyama

80歳を超えられてから白内障の手術をされ、亡くなる直前まで書物を読まれていたと奥様から伺いました。お写真は、つい最近のご自宅での先生の御姿です。まさに生涯現役で、わが国の大気環境の改善に尽くされた先生のご冥福を改めてお祈りしたいと思います。本当に有難うございました。 合掌

2019年12月
内山 巖雄 京都大学名誉教授